





世界史 B 問題

はじめに、これを読みなさい。

1. この問題用紙は 21 ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入すること。
7. 解答は楷書で丁寧に記述すること。判読できない場合には誤答とみなすことがあるので、注意すること。
8. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
9. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
10. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。ただし、この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
11. 試験時間は 60 分である。
12. マーク記入例

良い例	悪い例
	  

〔 I 〕 次の文章をよく読み、問 1～6 に答えなさい。

ヨーロッパ世界が形成されたのはいつのことだろうか。ゲルマン人の大移動・建国に伴う 5 世紀後半の西ローマ帝国の滅亡と、7 世紀のイスラーム勢力の西進をきっかけにして地中海世界はまとまりを失い、古代ギリシャ・ローマ文化とキリスト教にスラヴ人やゲルマン人の文化を融合した新しい東・西ヨーロッパ文化が成立した。中世前期には、ほぼ今日のヨーロッパの基本的民族構成、すなわち、地中海地方にはラテン系民族、西ヨーロッパにはゲルマン系民族、東ヨーロッパにはスラヴ系民族という分布ができあがる。また、アジア方面から移動してきたウラル語系・アルタイ語系民族が、インド＝ヨーロッパ語系民族と接触・交流を繰り返し、ヨーロッパの歴史と文化に多様性を生み出した。ハンガリーとフィンランドがウラル語系の言語を持っているのは、それぞれ、 人、フィン人というアジアからの遊牧民によって作られたからである。

フランク人は、サリー・・上フランクの勢力からなっていたが、それらを統一し、西ヨーロッパ世界の形成に大きな役割を果たし、フランク王国を建設したのがサリー人のメロヴィング家からでたである。フランク王国がイタリアの東ゴート王国と並ぶほど強国になった理由の一つに、によるアタナシウス派キリスト教への改宗がある。フランク王国は分割相続制をとったため、の死後、分裂と統一を繰り返した。その分国の宮宰の一人カール＝マルテルが勢力を伸ばし、息子ピピン(小ピピン)は、メロヴィング家を廃し、自ら王位についてカロリング朝を開いた。

小ピピンの死以後、カール大帝が全フランク王国を統一支配し、政策として、聖職者養成と教育を行い、カロリング＝ルネサンスを現出させた。その後、フランク王国は、843 年のヴェルダン条約、870 年の条約で、帝国の分割、統合を経て後のドイツ・フランス・イタリアの基礎となる東・西フランクとイタリアが形成された。

8 世紀から 10 世紀の間は絶えず外部勢力の侵入に西ヨーロッパは見舞われた。8 世紀後半からノルマン人はヴァイキングとして恐れられていたが、後に彼らの原住地にデンマーク・スウェーデン・ノルウェーの諸王国が建てられ、キリ

スト教化されると、移動も終わり、北欧は西ヨーロッパ世界に組み入れられることとなった。

西ヨーロッパ中世文化の特質はキリスト教文化である。教会の権威は絶大で、信仰を通して世界や文化を支配した。中世の学問を代表するのは神学である。中世の神学は、アウグスティヌスの思想を基盤に、スコラ学として発展した。スコラ学は11世紀のカンタベリ大司教 E ⁽³⁾ を経て、13世紀に大成された。12世紀から13世紀以降、各地に大学⁽⁴⁾ができた。中世文化で代表的なものは、美術の分野では教会建築、文学の分野では、ラテン文学とフランス・イギリス・ドイツ⁽⁵⁾などの国語文学といえるだろう。

問 1 空欄A～Eにあてはまる最も適切な語句を解答欄に記入しなさい。

問 2 ドイツの騎士団に対抗するために、下線部(1)のスラヴ系民族が建国したポーランド王国と、14世紀にリトアニア大公国が連合し成立した王朝名は何か、解答欄に記入しなさい。

問 3 下線部(2)の教義に従うローマ・コンスタンティノーブル・アンティオキア・イェルサレム・アレクサンドリアといった5つの有力教会の総称は何か、解答欄に記入しなさい。

問 4 下線部(3)の中世のスコラ学では、実在論と唯名論との間の中心的な論争があったが、唯名論を唱えた『然りと否』の著者の名前を解答欄に記入しなさい。

問 5 下線部(4)の大学について、中世最古の大学の一つで医学校を前身とし、12世紀に西欧医学教育の頂点にたった南イタリアの大学は何か、解答欄に記入しなさい。

問 6 下線部(5)に関して，この時代に完成したフランスを代表する武勲詩で，カール大帝のスペインにおけるイスラーム討伐を題材とするものは何か，解答欄に記入しなさい。

〔Ⅱ〕 次の文章をよく読み、問1～6に答えなさい。

2016年6月、イギリスではヨーロッパ連合(EU)からの離脱の是非を問う国民投票が実施され、「離脱派」が勝利した。連綿と続く世界史をひもとくと、新しい国家の独立や、戦争等による侵略と領土の収奪の繰り返しであることが分かる。

まず、北アメリカに目を向けてみよう。17世紀前半にイギリスから移住したピューリタンたちはヴァージニアやマサチューセッツに植民地を建設し、その後、旧教徒派はメリーランドに植民地を建設したほか、ウィリアム＝ペンにより⁽¹⁾ペンシルヴェニアなどの植民地が建設された。18世紀前半までには13の植民地が南北にならぶ形となった。18世紀にはイギリスとフランスの間でフレンチ＝インディアン戦争と呼ばれる植民地戦争が起こった。この戦争に勝利したイギリスは1763年のパリ条約により、カナダとミシシッピ川以東のルイジアナ、フロリダ、西インド諸島の一部およびアフリカの を獲得した。

イギリス本国は重商主義政策によって植民地への課税の強化をはかったが、植民地側は1774年、大陸会議を開いて本国に自治の尊重を要求した。しかしながら1775年にはレキシントンならびに で武力衝突が起こり、独立戦争が始まった。この戦争に勝利したことによって、アメリカ合衆国が誕生した。⁽²⁾その後、フランスからミシシッピ川以西のルイジアナを買収したり、メキシコから⁽³⁾カリフォルニアを獲得したりすることによって、アメリカ合衆国は太平洋にまで領土を拡大した。

次に、中央アメリカおよび南アメリカに目を移してみよう。この地においては、アステカ王国やインカ帝国が栄えていたが、アステカ王国はスペインのエルナン＝コルテスによって滅ぼされ、またインカ帝国も同じくスペインのフランシスコ＝ピサロによって滅ぼされた。⁽⁴⁾フランス領ハイチは を指導者として独立運動を展開し、彼の死後、1804年には独立を勝ち取った。また、アルゼンチン出身のサン＝マルティンの支援により、1818年に が独立を宣言した。ブラジルではナポレオンの進出のために亡命していた を皇帝として、1822年に武力によらずに独立を達成することになった。これらの独立

にはクリオーリヨが中心となった。

(5)
それから約 200 年の時間が経過した。依然として、歴史の流れは止まることを知らない。

問 1 文中の空欄 A～E にあてはまる最も適切な語句を解答欄に記入しなさい。

問 2 下線部(1)のウィリアム＝ペンが信仰していた宗教は何か。正式にはフレンド教会と呼ばれる 17 世紀にイギリスで生まれた新教の名称を解答欄に記入しなさい。

問 3 下線部(2)の独立戦争において、植民地側の農民の民兵は何と呼ばれたか。解答欄に記入しなさい。

問 4 下線部(3)のカリフォルニアと東部を結ぶ最初の大陸横断鉄道は東西から建設された。その鉄道が連結されたユタ州のポイントはどこか。解答欄に記入しなさい。

問 5 下線部(4)のインカ帝国において、文字の代わりに使用された、統計や数字を記録する伝達手段は何と呼ばれているか。解答欄に記入しなさい。

問 6 下線部(5)のクリオーリヨは現地生まれの白人を指すが、先住民と白人との混血は何と呼ばれたか。解答欄に記入しなさい。

〔Ⅲ〕 次の文章A～Jをよく読み、下線部(1)～(4)のうち、誤っているものを一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

A 伝説によると中国の最初の王朝とされているのは夏王朝であり、帝王として⁽¹⁾堯・舜・禹がならび称されるうち、舜が堯に治水の功を認められてその王都を開いたとされるが、所在については確認されていない。⁽²⁾確認されている最古の王朝であるのは殷(商)であり、⁽³⁾河南省安陽市の殷墟が20世紀初頭に発掘された。ここでは甲骨文字による大量の亀甲・獣骨や、多数の人畜が埋葬された王墓、および⁽⁴⁾大きな宮殿跡が発見された。

B 周は最初、殷に服属していたが前11世紀頃、殷を滅亡させた。周王は一族⁽¹⁾・功臣や各地の首長に封土を与えて諸侯とし、代々の領有を認めた。⁽²⁾王と諸侯に従う家臣である、卿・大夫・士にはそれぞれ地位を与え、主人の土地の管理と防衛を任せた。⁽³⁾封建という、この統治のあり方は家柄と氏族のまとまりを重んじ、親族関係の秩序とそれに従う祭祀について規定する宗法がつくられた。⁽⁴⁾

C 周は、その西北方面で周辺民族の活動が活発になったこともあり、前8世紀に首都を攻略された。そして都を鎬京から郢に移したが、徐々に周の勢力は弱まり、前3世紀後半の秦による統一まで混乱の状態にあった。この時期の前半⁽¹⁾(前5世紀末)までを春秋時代と呼び、後半を戦国時代と呼ぶ。春秋・戦国時代は分裂の時代でもあったが、それぞれの地域の内部で、のちの統一国家のための礎が築かれた。具体的には中央集権的な政治体制の発展、農業技術と貨幣経済の進展、華夷思想の登場などを挙げるができる。⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾

D 618年に軍閥の李淵は隋を滅ぼし、唐をたて、長安を都とした。隋の時代にすでに、均田制・租調庸制・府兵制が取られ、科挙の制度が確立されていたが、唐は隋の制度を継承し、律令国家の体系を構築した。唐は、中央に三省（中書・門下・尚書）・六部（吏・戸・礼・兵・刑・工）・御史台などを設け、地方には州県制をしいた。その統治の基盤には均田と、租・調・庸の税制があり、地主の力を抑制し、自作農を国家が直接支配することがあった。結果として地主や貴族の力は削がれ、荘園制は衰退した。

E 唐は周辺地域の多様な要素を取り入れて、唐を中心とした東アジア文化圏とも呼べる関係を作り出した。この関係で朝鮮や日本は、朝貢制度によって律令体制・都城の制・仏教文化などを導入し、国家の基礎を固めた。朝鮮半島では唐が新羅と連合し、百済・高句麗を滅ぼした。新羅はその後、朝鮮半島の大部分を支配し、唐の官僚制を導入したので、それまで社会の基盤であった骨品制という氏族的な身分制度は廃止された。日本では遣隋使・遣唐使といった中国文化の輸入の試みが続き、この時期に「日本」という国号や「天皇」号が正式に定められた。また、唐の均田制を模倣した日本の制度は、班田収授法である。

F 唐滅亡後の東アジアでは、キルギスの衰退とともにモンゴル系の契丹が勢力を強めていた。耶律阿保機は契丹の8部族を統合し、遼を建国した。西方に遠征して支配圏をオルドス地方にまで広げたほか、東方では「海東の盛国」と呼ばれた渤海を滅ぼした。その後、第2代太宗のときには、五代の後晋の石敬瑭の建国を援助した代償として河北省と山西省の一部にあたる、燕雲十六州を領土に加えた。宋の成立後も、華北に侵入して宋を脅かし、宋が絹や銀を毎年贈ることを条件とした和議である澶淵の盟を結んだ。

G 11世紀後半、北宋の神宗は、王安石を宰相に起用し、政治の根本的改革をはかった。新法と呼ばれる彼の改革には、物資流通の円滑化と物価の安定をはかる均輸、中小商人への低利の貸し付けを行う青苗、力役の代わりに免役銭を出させて希望者を雇用する募役、民兵の訓練や治安維持のための農村組織である保甲などの諸法がある。

H 明の時代では木版印刷による書物の出版が急増し、思想や科学、文芸に至るまで多様な文化が花開いた。徐光啓は『農政全書』ならびに『崇禎曆書』をあらわし、趙士禎は火器の構造などを述べた兵学書『神器譜』を出版し、文芸の分野では呉承恩が『金瓶梅』をあらわした。また、戯曲の分野では湯顯祖が『牡丹亭還魂記』を完成させた。

I 清朝では、康熙帝の時代に黒竜江沿いに南進していたロシアと戦い、ネルチンスク条約を結び、国境を定めた。また、モンゴル方面に遠征し、タングートを破って外モンゴルを支配し、モンゴル人に多大な影響をもつチベット仏教の本拠であるチベットにも勢力をのぼした。乾隆帝の時代には、タリム盆地を支配していたジュンガルを滅ぼし、東トルキスタン全域を占領し「新疆」と称した。広大な領土を獲得した清朝は中国内地・東北地方・台湾を直轄領とし、モンゴル・青海・チベット・新疆を藩部として理藩院に統括させた。

J 1949年10月、毛沢東を主席、周恩来を首相として成立した中華人民共和国は、1950年に中ソ友好同盟相互援助条約を調印し、社会主義圏に属する姿勢を明らかにした。1950年代前半には戦前の農工業生産額をこえたが、やがて強引な工業化・農業集団化政策や共産党支配への批判があらわれた。毛沢東は「大躍進」運動を指示し、農村での人民公社設立をすすめたが失敗した。毛沢東(3)にかわり劉少奇が国家主席となったものの、党主席にとどまった毛沢東はアメリカ合衆国との対決路線をとり、ソ連と戦略的に提携した。(4)

〔Ⅳ〕 次の文章をよく読み、下線部(1)～(10)に関する問 1～10 に答えなさい。

16 世紀に初めて宣教師として日本に渡った フランシスコ＝ザビエル と同様、後に織田信長によって布教を許された ルイス＝フロイス もまた、キリスト教のなかでもカトリックに属す イエズス会 という修道会に所属していた。この時代には他にもすでに フランチェスコ修道会・ドミニコ修道会 が世界各地に宣教師を派遣し、16 世紀末にはそれぞれ 豊臣秀吉 への謁見を許されていた。日本での活動は江戸幕府の外交政策であった 鎖国 が完成されて以来、禁じられることになったが、これらの修道会は世界規模で宣教活動を行っていた。

イエズス会 の宣教活動の背景として、新航路の発見と宗教改革という二つの事実は重要である。特に ポルトガル と スペイン といった絶対王政国家が 航路発見 を競い合っていたが、その目的は東方貿易による利益の確保と植民地の獲得にあった。とはいうものの、植民地主義と宣教活動とは直接結びついていただけでもなく、教義上の理由から植民地支配・統治のあり方に批判がなされる こともあった。宗教改革は カトリック内部での神学や制度にたいする再検討 のきっかけとなり、イエズス会 の設立の動機づけともなった。

こうした修道会により組織的に派遣された宣教師の活動は、近代以前の時代においては、他の世界宗教と比較しても珍しい。例えばイスラーム教は、発祥の地から広く世界に広まっていると言えるが、それは、移動した商人や住民が周囲の住民を改宗させたこともあったが、布教そのものが移動の目的だったわけではない。仏教については、仏教に帰依した為政者による伝道師の派遣 がなされることがあった。

問 1 下線部(1)「フランシスコ＝ザビエル」の記述として最も適切なものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ザビエルはスペインの貴族の子に生まれ、パリに留学し、イエズス会の設立に参加した。1549年に日本を訪れた後に、彼は中国に向かった。
- ② ザビエルは中国に渡った後に、清朝においてさまざまな西洋の技術も伝えた。雍正帝の時代に北京郊外に建築された円明園の設計はその例である。
- ③ ザビエルと共に日本で布教を行ったのは、マテオ＝リッチであった。彼もまた西洋の学問を中国に伝え、広州で死去した。
- ④ ザビエルは中国で宣教活動を行った後に、インドのゴアに渡った。当時すでにスペインによってゴアは占領されており、そこでザビエルは大聖堂の建設に携わった。

問 2 下線部(2)「フランチェスコ修道会・ドミニコ修道会」についての記述として適切でないものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① フランチェスコ修道会は1209年、フランチェスコによって創立された。中世では哲学よりも神学のほうが上位におかれ、ラテン語神学であるスコラ学が発展した。13世紀にフランチェスコ修道会のトマス＝アキナスはアリストテレス哲学に基づき、『神学大全』を著した。
- ② フランチェスコ修道会とドミニコ修道会は共に托鉢修道会と呼ばれ、財産の所有や教会の俗化に反対した。
- ③ ドウンス＝スコトゥスやウィリアム＝オブ＝オッカムはフランチェスコ修道会に所属していたが、唯名論の立場をとり、信仰と理性は調和しないとして、実在論を排した。その後、スコラ学は衰退に向かった。
- ④ ドウンス＝スコトゥスやウィリアム＝オブ＝オッカムの思想に先がけて、フランチェスコ修道会のロバート＝グロステストと、彼の弟子のロジャー＝ベーコンは、ギリシアやアラビアの科学を手がかりに数学的実験科学の方法を探究した。

問 3 は不備があったため、全員正解にしたと大学から発表がありました。
また、本文はその関係から削除されています。

問 4 下線部(4)「鎖国」についての記述として適切でないものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 徳川家康が促進した朱印船貿易は、海外貿易の許可証として朱印を押した文書をもつ貿易船によって、江戸幕府による鎖国政策が行われるまで続けられた。
- ② 日本と中国のあいだの銀と生糸の貿易は 16 世紀から 17 世紀にかけてさかんになり、大きな利益をあげた。中国人と日本人だけではなく、ポルトガル人、オランダ人もまたその利益をめぐってしのぎを削った。
- ③ 徳川家康が江戸幕府を開いた後に、統治の基礎固めの目的のためにキリスト教が禁止され、貿易の統制が行われた。日本人の海外渡航の禁止と長崎出島での清とオランダ以外の外国との交易を認めないという、徹底した鎖国状態は 1630 年代に開始された。
- ④ 鎖国時代の例外的な外交としては朝鮮通信使が挙げられる。これは李氏朝鮮が織田信長に派遣した使節であり、江戸時代以降は天皇が即位するたびに祝賀を兼ねて来日、交渉を行った。

問 5 下線部(5)「イエズス会」の記述として適切でないものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① イエズス会は 1534 年にイグナティウス＝ロヨラたちにより設立された修道会であった。
- ② 中国におけるイエズス会の活動はマテオ＝リッチ以降も積極的に続けられ、ドイツ人宣教師であるアダム＝シャル、ベルギー人の宣教師であるフェルビースト、フランス人の宣教師であるブーヴェ、イタリア人宣教師であるカスティリオーネなどが、西洋的な学問や芸術を伝えた。
- ③ イエズス会宣教師の布教活動は、中国の伝統文化を尊重し、中国語を習得し古典を研究するなどの成果として、明末には 15 万人もの信者を得るようになり、遅れて中国に渡ったドミニコ修道会・フランチェスコ修道会の範となった。
- ④ イエズス会の宣教師たちは中国の制度・文化をヨーロッパに紹介することにも積極的であった。例えばドイツのライプニッツ、フランスのヴォルテールとケネーの思想にも大きな影響を与えた。

問 6 下線部(6)「ポルトガル」に関連して適切でないものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ポルトガルとスペインの位置するイベリア半島では、8世紀からキリスト教勢力によりイスラーム勢力を排除するレコンキスタ運動が続いていた。
- ② まず最初にイスラーム勢力を排除し中央集権化を果たしたポルトガルでは、15世紀前半、アフリカ西海岸の探検事業に着手した。「航海王子」エンリケは、サグレス岬に研究所を作り、航海術や天文学の研究を進め、航海者を育てた。
- ③ ヴァスコ＝ダ＝ガマはパロスを出発し、喜望峰をまわり、インド洋を横切ってインドのカリカットに到着した。この航路の発見によって得られるようになった香料の価格は、これまでのものよりはるかに安く、莫大な利益を生んだ。
- ④ ポルトガルは1517年にコロンボを占領し、1557年にマカオに居住許可を得て、東アジアにも乗り出した。その間、種子島にポルトガル人が漂着し、鉄砲が日本に伝えられた。

問 7 下線部(7)「航路発見」について適切でないものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 大航海時代の航海を可能にするためには、航海術においても進歩が必要であった。航海にはポルトラーノ図と呼ばれる海図が用いられた。
- ② 1400年頃まではオールと漕ぎ手を必要とするガレー船や、1本マストに四角帆をはった150トン前後のハンザコックが北海・バルト海で、2本マストの2枚の三角帆をはった商船が地中海で用いられた。
- ③ 「航海王子」エンリケのもとの船長たちはキャラヴェル船を用いていた。これには3本のマストに大小3枚の三角帆をはったキャラヴェル＝ラティナ、四角い帆をはったキャラヴェル＝レドンタがあり、どちらも従来の船よりも細長く、大洋航海に優れていた。ヴァスコ＝ダ＝ガマの航海にもこの形の船が用いられた。
- ④ 1450年頃にはそれよりも大型のナウ船が登場し、コロンブスのサンタ＝マリア号はこの形式であった。そして最終的により巨大な1000トン以上のキャラック船が登場した。

問 8 下線部(8)「教義上の理由から植民地支配・統治のあり方に批判がなされる」の記述として適切でないものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 16世紀前半、アメリカ大陸のスペインによる探検事業は、新世界の征服事業に転じた。この事業をになったのはコンキスタドルと呼ばれる勇敢だが残虐な者たちであった。
- ② 西インド諸島の新しい領土を手に入れた後に、スペインは商務省において植民地貿易を王室の支配下においた。エスパニョーラ・キューバではプランテーション経営による砂糖生産が開始されたが、先住民はすでに虐げられ、十分な数はいなかったために、アフリカから黒人が奴隷として連れてこられていた。
- ③ スペインの植民地において、先住民であるインディオをプラトンの国家論にしたがい強制労働にかりだし酷使・虐待するエンコミエンダ制にたいし、ドミニコ派修道士のラス＝カサスは廃止を訴えた。その理由としてラス＝カサスは、インディオたちが組織的国家を有していることから理性的存在であることを指摘し、けっして「野蛮」ではなく、キリスト教に改宗可能であることを挙げた。
- ④ 植民地支配を正当化するものとして、ヨーロッパ人のあいだには「文明」「理性」の「野蛮」に対する優位という観念が根強かった。こうした「文明」「理性」の側にいるヨーロッパ人たちが、「野蛮」な住民を統治・支配するのは当然だという独断は、「大西洋革命」を契機に変化を被るようになった。

問 9 下線部(9)「カトリック内部での神学や制度にたいする再検討」に関連して最も適切なものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① 聖書から直接神のことばを学び、「信仰によってのみ」神の恩寵が得られることを確認し、教義・秘蹟・職階制度が否定されることになった。
- ② 教会の制度や聖職者の行為のなかで、明らかな腐敗や墮落した部分が反省され、教義について根本的なところが再確認された。具体的には、禁書目録がつけられ、宗教裁判所が強化され思想統制が行われた。
- ③ 人間性を抑圧してきた中世の束縛から人間精神を解放することが必要であり、個の自由の発揮についての理想が全面的に考えられた。
- ④ 司教が教会の頂点にあつて強い指導力を持ち、その下に司祭・執事などがおかれ、ローマやイェルサレムなどの大教会は他教会を指導するようになった。

問10 下線部(10)「仏教に帰依した為政者による伝道師の派遣」について適切でないものを次の①～④のなかから一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

- ① ガンジス川流域で興ったマウリヤ朝は、第3代のアショーカ王の時代に全盛期であった。彼は仏教への信仰を深め、武力を放棄し万人の守るべきダルマによる統治を理想とした。
- ② ダルマの理想をアショーカ王は詔勅として発布し、領内各地の岩石や石柱に刻ませ、地中海方面まで使節を派遣して伝えた。
- ③ アショーカ王はダルマの政治の一環として道路を整備し、人畜の病院を建てるなどの社会事業にも力を注いだ。
- ④ アショーカ王の保護のもとで仏教は亜大陸の辺境まで伝わった。彼は多数の仏塔を建立し、第3回の仏典結集を援助したとも言われている。このアショーカ王の時代にガンダーラ美術が発達した。

〔V〕 次の文章A～Jをよく読み、下線部(1)～(4)のうち、適切でないものを一つ選び、その番号を解答欄にマークしなさい。

A 18世紀半ば頃、アラビア半島で、イブン＝アブドゥル＝ワッハーブはイスラーム教の改革を唱える運動を始めた。彼を支持するワッハーブ派はハーシム家と結んでワッハーブ王国を建国し、のちにリヤドを首都に定めた。ワッハーブ派は、イラン人やトルコ人がもたらしたスーフィズムと聖者崇拝によってイスラーム教は墮落したとみなし、預言者ムハンマドの教えに立ちかえれと主張した。それは、現代まで続くイスラーム改革運動の始まりとなった。ワッハーブ派の運動は次第にアラビア半島全域に拡大し、メッカやメディナもその支配下に入った。

B 1798年、ナポレオンが率いるフランス軍はオスマン帝国の属州であったエジプトを占領した。オスマン帝国はイギリスと結んでフランス軍を撃退したが、その後の混乱に乗じてエジプトの実権を握ったムハンマド＝アリーにエジプト総督の地位を認めた。ムハンマド＝アリーは富国強兵政策を採用し、近代的な軍隊の創設、造船所・官営工場・印刷所の建設、綿花など商品作物の栽培奨励、教育改革などを行った。彼はワッハーブ王国やギリシア独立戦争へ出兵した。その後、オスマン帝国にシリア領有を求めたが拒否されたため、2度にわたってオスマン帝国と戦った。しかし、エジプトの強大化を恐れたヨーロッパ列強の介入を招き、1840年のベルリン会議でムハンマド＝アリーはシリアの放棄や軍備縮小などを強制された。

- C 19世紀以降、オスマン帝国はイエニチェリ軍団の解体など一連の改革を進
(1)めた。1839年、アブデュルメジト1世がギュルハネ勅令を出し、タンジマー
(2)トと呼ばれる司法・行政・財政・軍事にわたる大規模な西洋化改革に着手し
た。この改革によって、オスマン帝国は伝統的なイスラーム国家から、法治主
義に基づく近代国家へと体制を改めたが、ムスリムの法的な優越は維持した。
(3)その後、激しい政治闘争と社会経済の変動を経験しつつも、オスマン帝国の改
革は徐々にすすんだ。1876年には、大宰相ミドハト＝パシャによって起草さ
(4)れた憲法が發布された。
- D 18世紀前半にサファヴィー朝がアフガン人の侵入によって滅亡した後、イ
(1)ランでは政治的混乱が続いた。18世紀末、この混乱を收拾したカージャール
(2)朝がテヘランを首都としておこった。カージャール朝はカフカスを巡るロシア
との戦いに敗れ、1828年にトルコマンチャーイ条約を結び、ロシアに対し
(3)て、領事裁判権を認め、関税自主権を喪失し、さらに南アゼルバイジャンを割
譲した。こうした混乱の中、サイイド＝アリー＝ムハンマドはバーブ教を創始
した。1848年、バーブ教徒は社会改革をとнаえ、カージャール朝の専制に対
(4)して武装蜂起したが、まもなく鎮圧された。
- E ムハンマド＝アリーの没後、エジプト総督の地位は彼の子孫が世襲した。エ
(1)ジプトは鉄道や電信網の整備、土地改革などの近代化政策を進め、1869年に
はスエズ運河が開通した。しかし、近代化政策や戦争に伴う出費増大によって
エジプトの財政は悪化した。1875年にエジプトはスエズ運河株をイギリスか
(2)ら購入して財政基盤を強化したが、翌年にエジプトの国家財政は破綻し、イギ
(3)リス人とフランス人が財務を管理する内閣がつくられた。1881年、このよう
(4)な外国支配に抵抗するため、「エジプト人のためのエジプト」を掲げるウラービ
ー(オラービー)の反乱がおきたが、翌年イギリスはこれを鎮圧し、エジプトを
軍事占領した。

F 18世紀半ば以降、サーマーン朝のもとでアフガン王国は独立を保っていた⁽¹⁾が、19世紀にイランの侵攻を受けた。イギリスは、イランの進出とロシアによる中央アジア経由の南進を恐れ、これに介入してアフガニスタンのイランからの独立を認めさせた⁽²⁾。さらに、ロシアの南進からインドでの権益を守ろうとするイギリスは、2度にわたってアフガニスタンに侵攻して軍事力による直接支配を試みた⁽³⁾が失敗したため、外交権を抑えアフガニスタンを緩衝国とする戦略に転じた。1919年にはアフガニスタンはインドを攻撃し、イギリスと交戦したが、停戦後にアフガニスタンの独立が国際的に承認された⁽⁴⁾。

G オスマン帝国では、アブデュルハミト2世がロシア＝トルコ戦争勃発を口実⁽¹⁾として、1878年に憲法を停止し、議会を閉鎖した。また、パン＝イスラーム主義をと⁽²⁾なえることで、みずからの専制政治の維持を試みた。こうした中、「青年トルコ人」と称される青年知識人らは、1889年にスルタンの専制政治に⁽³⁾反対する「統一と進歩団」を結成した。日露戦争での日本の勝利などに影響を受けたオスマン軍若手将校らはこの運動に加わり、1908年に立憲制復活を求めて行動を起こした。これに対して、アブデュルハミト2世は憲法復活を許さな⁽⁴⁾かったが、議会再開は容認した。この政変は、青年トルコ革命と呼ばれる。

H 19世紀半ば、イランのカージャール朝は近代化改革を試みた⁽¹⁾が失敗した。国家財政が悪化したカージャール朝は、鉄道・道路敷設や電信線敷設など多くの利権を外国資本へ譲渡することで、収入確保を試みた。1890年にタバコ販売の利権がイギリスの会社に譲渡されると、1891年にスンナ派ウラマーを中⁽²⁾心にタバコ＝ボイコット運動が高揚した。この結果、最終的にイギリスの会社⁽³⁾へのタバコ販売利権の譲渡は取り消された。この運動を契機に、イラン人の民族意識が高揚するとともに、専制を批判する立憲運動がおこった。1906年にはイランで初めて国民議会が開かれ、フランス人権宣言の影響を受けた憲法が⁽⁴⁾公布された。

I 第一次世界大戦で敗北したオスマン帝国は、領土の大幅割譲、軍備縮小、領事裁判権の存続などを定めるヌイイ条約に調印した。また、ギリシア軍はイズミルなどエーゲ海沿岸地域を占領した。こうした危機的状況に対して、ムスタファ＝ケマルはトルコ人の主権と国土を防衛するために、1920年にアンカラでトルコ大国民議会を組織した。1922年、ケマルはギリシア軍を撃退してイズミルを回復した後、スルタン制を廃止し、1924年にはカリフ制も廃止した。この間、1923年に連合国とローザンヌ条約を締結し、新国境の設定や不平等条約の撤廃を成し遂げ、アンカラを首都とするトルコ共和国を成立させた。同年に大統領へ就任したケマルは、政教分離、太陽暦の採用、女性参政権の実施などの近代化政策を進めた。

J イランは第一次世界大戦では同盟国側で参戦したため、イギリスとロシアの進駐を受けて戦場となり、政治的混迷が続いた。1921年、レザー＝ハーンがクーデタによって実権を掌握した。1925年、レザー＝ハーンはカージャール朝を廃してパフレヴィー朝を創始し、みずからシャー(国王)を称した。彼は徴兵制による国軍創設、鉄道建設、西政法体系に基づく商法と刑法の導入など近代化政策を進めた。しかし、イラン国内の石油利権はイギリスの手に残されたままであった。

